2026年3月20日 11:00 AM

お気に入り記事

建設業など16社のグループ会社を擁するヤブシタホールディングス（本社・札幌市中央区）傘下の1社で、空調・冷熱部材メーカーのヤブシタ（同・同）は、防音の常識を覆す、低音域で30dB（デシベル）の遮音性能を持つ遮音パネルを、国内で初めて開発した。従来は難しかった低音域の騒音対策に対応し、データセンターの冷却装置や蓄電所のパワーコンディショナ、蓄電池設備などから発生する騒音の低減に効果を発揮する。



（写真は、ヤブシタの遮音パネル実験室で説明する冷熱・PV部設計課の山口哲太リーダー）

ヤブシタは、空調機器や冷凍機器の部材を製造・販売しており、こうした機器から発生する音の防音部材も手掛けてきた。防音のニーズは、蓄電所のパワーコンディショナや蓄電池設備、データセンターの冷却用チラー（冷却水循環装置）などから発生する騒音に対して高まっている。一般的なビル用マルチエアコンの室外機の騒音は、1m離れた地点で60dB（普通の会話程度）とされる。一方、空調用チラーは70dB（騒々しい事務所内程度）、パワーコンディショナや蓄電池関連設備では80dB（電車の車内程度）となる場合がある。